

# テーマ“Data Governance”に関する話題紹介

- IGF2019の概要
- 個人レポート

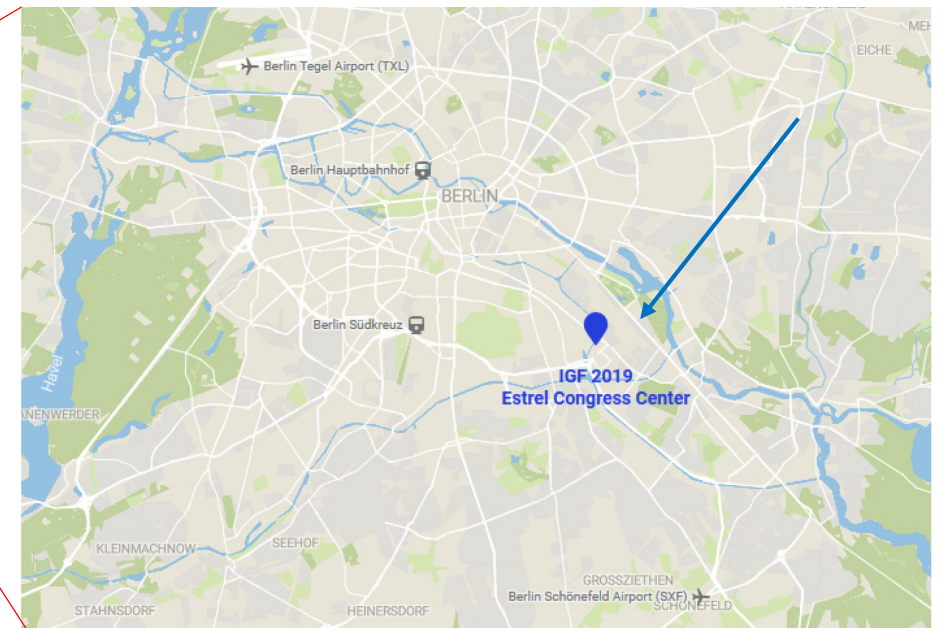
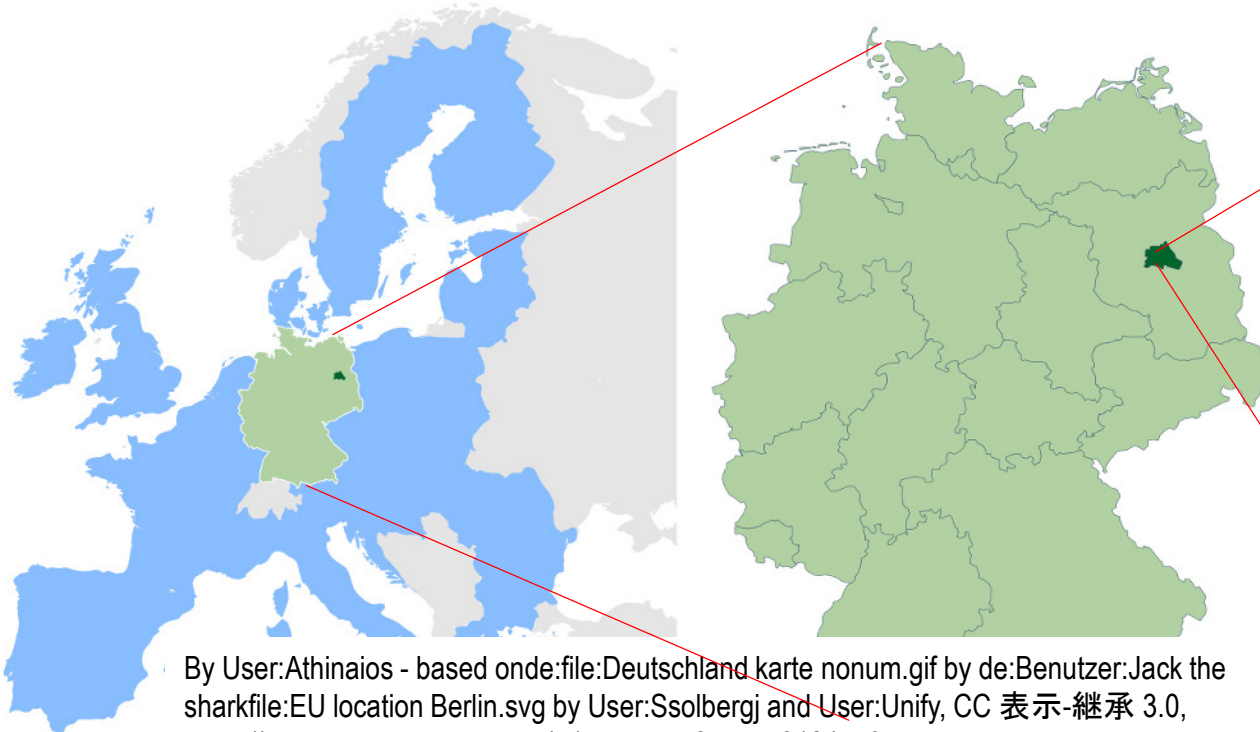
# IGF2019の概要

---

# IGF2019開催概要

- 開催期間:2019年11月25日(月)~29日(金)
- 開催都市:ベルリン@ドイツ連邦共和国
- 会場:Estrel Congress Center
- 主催:国連
- ホスト:ドイツ政府

# IGF



By User:Athinaios - based on de:file:Deutschland karte nonum.gif by de:Benutzer:Jack the sharkfile:EU location Berlin.svg by User:Ssolbergj and User:Unify, CC 表示-継承 3.0, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=3124579>

出典: <https://www.igf2019.berlin/IGF/Navigation/EN/be-there/be-there.html>

# IGF2019の重点テーマ

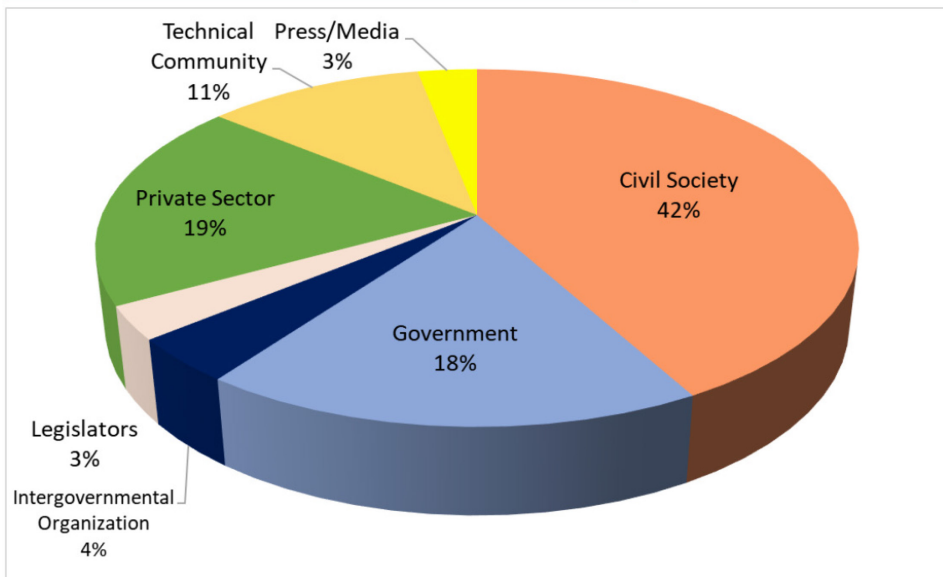
- データガバナンス(Data Governance)
- デジタル包摂(Digital Inclusion)
- セキュリティ、安全性、安定性、回復力(Security, Safety, Stability & Resilience)

# IGF2019のプログラムの種類

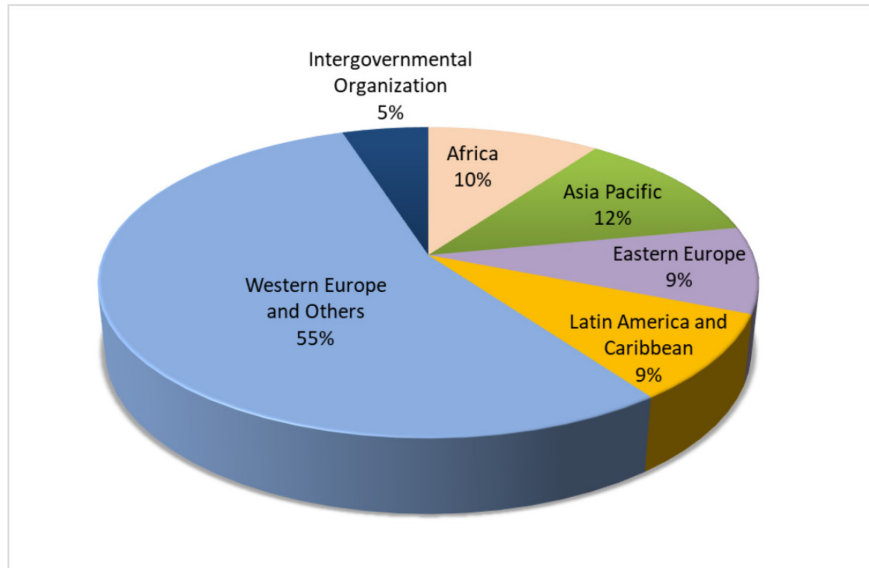
- ワークショップ
- ベストプラクティスフォーラム
- オープンフォーラム
- 動的連携(Dynamic Coalition)
- NRI協働(Collaborative)セッション
- メインセッション

# IGF2019の構成

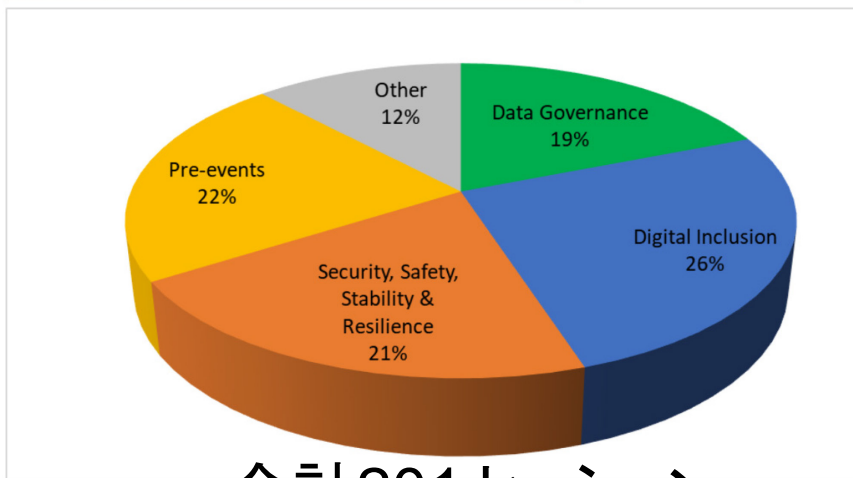
Onsite Participants by Stakeholder Group



Onsite Participants by Regional Group



Sessions per Theme



合計201セッション

161ヶ国/地域から約3,400名

# IGF2019のオープニングスピーチ



アントニオ・グテーレス国連事務総長



アンゲラ・メルケル首相

メルケル首相のスピーチはこちら><https://www.bundestkanzlerin.de/bkin-en/news/merkel-igf-1698720>

# IGF2019のワークショップ

- データガバナンスに関するワークショップ
  - 人工知能(AI)や民主主義、法律、主権、普遍的なデータ保護の枠組み、途上国向けグローバルデータガバナンスなど
- デジタル包摂に関するワークショップ
  - アクセシビリティ(障害者による電子機器の操作をしやすくすることなど)、多言語ドメイン名、IPv6、ICANNにおけるマルチステークホルダーによるポリシー決定など
- セキュリティ、安全性、安定性、回復力に関するワークショップ
  - サイバーいじめ、デジタル主権、偽情報、IoTの透明性とコントロール、不法コンテンツに対するDNSブロッキング、技術ナショナリズムなど



# 個人レポート

---

Data Governance関連で記憶に残った3つのポイント  
\*次ページ以降はあくまで個人の感想です

# ①プラットフォーム事業者の規制議論

- プラットフォーム規制に関する議論
- プラットフォーマーは利用者に責任がある、公平性を担保せよ、平等に扱え、AI脅威、その他人おとりの議論。
- これまでは、プラットフォーム事業者の責任論にする論調\*が目立っていた。しかし、今回はフェイクニュースは民主主義の根幹を揺るがすという議論の延長で、それを揺るがすのは、中国とロシアである、と仮想敵の矛先をプラットフォーム事業者から中国・ロシアに変えていた。
  - ロシア(?と思わしき人)からはエビデンスを出せ！と反論があったが、対立構造が変わってきている事も興味深い。 \* Ex:「フェイクニュースを流通させたのはFacebookが悪い」とか。

個人的には

- アメリカでは、法律家など規制側の人からもテクノロジーの可能性やポジティブな面に光を当てる発言を見かけるようになったが、EUではまだまだ規制強化の方向。産業構造なども関係すると思うが、ここら辺が企業と行政とユーザーの関係の違いを表している。メルケルのいう、ワンワールドは果たして実現できるのか。まだまだ溝は深いと感じる。
- プラットフォーマーは第二の行政機構・民間官僚機構か？ 利益相反など踏まえ、営利企業が自主的に各種規制をするのは限界があるのか？

## ②ジャーナルに関する議論

- プラットフォーマーがコントロールポイントであり、(情報の表示に関する) 責任があるという論調。
- ジャーナルの議論の中では、特に“知る権利”と“ジャーナリズム”の議論が興味を引いた。
- どちらも、ジャーナリズムや経験や実績を持つメディアの情報をプラットフォームが選り分けする事の是非。
- 現時点ではNewsサイトよりもFacebookなどのSNSにFact Checkを依頼している構造。
  - ジャーナリズムをもちメディアとしての経験や実績があるNewsよりも、Facebookにその真偽をゆだねる事になるため、果たしてそれでよいのかと警笛を鳴らした発言があった。
    - プラットフォームをコントロールポイントとすることの弊害でもある
    - APriIGF2019でも同じような意見を聞いた。例えば、犯罪者を取り押さえる警察は国家からライセンスを受けているが、インターネット上で垢Ban/コンテンツテイクダウンするプラットフォームはノンライセンス。果たしてプラットフォームの倫理観に任せることが良いのかという議論。

個人的には

- 日本でも管理のしやすさという面からプラットフォーム事業者に責務を負わせる議論があるが、この点を考慮する事は重要と考える。(個人的にはプラットフォームを監視する機能が政府とは別にあるべきと思う。含むNPO/NGO)

### ③TVEC(terrorist and violent extremist content)に関する議論

- メインセッションの一つでNZ アーダーン首相がChristchurch事件を振り返りつつ、TVECの拡散防止を呼び掛けるビデオメッセージ
- ヘイト、テロ関連のセッションではカカオトークが登壇
- 特に興味を引いたのは“ヘイトスピーチ”。ヘイトスピーチではUSとEUのスタンスの違いが見れた

個人的には

- ヘイトスピーチを“ダイバシティ”の問題と捉えるか、“治安対策”と捉えるかの違いと感じた
  - ダイバシティの問題であれば、LGBTやジェンダーといったIGFでおなじみの価値観
  - 治安対策の問題と捉えるならば、究極的にはテロへの対策とも考えられる。
- 対して、日本ではこの問題を誹謗中傷の延長と考えているように感じるが、より踏み込んだ思想信条が必要かもしれない。  
→現に社会から分断された人のテロ行為が日本でも発生している。

Thank you